

の作品も入選扱い出来かねるのは残念
但し、漸次、公開可能な作品も集つて
いるので、今後の誌上を賑わしたいと
思っている。

○優秀なる作品が続々と集っているの
で、秋には増大号を刊行して皆さまの
御期待に応えたい。
○本号大遅れて申し訳ありませんがの
次号は引続いてお届けする筈。

短 信 往 来

○辻村隆氏の幹旋で、愛読者のブルジ
ヨア某氏が自家用車を提供してくる
というので、五月晴れの一日、野外實
撮影行を敢行、モデル伊吹真佐子嬢を
煩して、貴重な野外の縛り写真の数々
を得た。次号には、辻村氏の撮影紀行
と共に素晴らしい写真を公開の予定。
○昨年の本誌では、「淫火」と「らぶ
すれいぶ」を一カ年連載、其の後、
吾妻新氏の「感情教育」森本愛造氏の
「残虐なる女性達」伊藤晴雨氏の「性
液」沼正三氏の「あるマゾヒストの手
帳」等の長篇連載が好評を博している

が、余り長続きしそつもない創刊号と
稱する雑誌が、「長篇連載第一回」等
と銘打っているのを見ると、他誌の事
乍ら、あとあとが心配になつてくる。
なんだか、書いている人に気の毒のよ
うな気もする。現に、某風俗雑誌は
連載をいくつも抱えたまま、尻キレト
ンポになつてゐる。

○最近の書店をちよつと、のぞいてみ
ると、梅雨空のように軟派誌界は暗澹
として見る影もない。一時は百花燦乱
と絢を競つたものだが、「俺達の読む
本がないじゃないか」となげかける程
昔の俤はない。

○B5版は駄目だと見切りをつけてA
5版に転向したO誌も、その特徴のな
い内容を嫌われてか、いつの間にかや
姿を消している。R誌も今や昔日の俤
は更らない。軟派誌界の雄として、こ
のあたりで、緊陣一番、新機軸を出し
て貰いたいところ。

○猿マネや旧態依然と、昔の夢ばかり
を追つてゐるところは、不思議と潰れ
ている。堅実な誌だけが残つて泡沫が
出なくなれば誌界も落着くだろう。

○最近、サディズムを描いた新刊を読
みましたので、紹介いたします。とい
う便りを貰つた。左に紹介すると、訳
名は「南北戦争」(原名はThe
memories of Daily morton
で著者はカウント・ジョージ、南悦夫
訳となつてゐます。奇譚クラブでは御
存じでしょうか、二十八年九月の発行
となつてゐます。全篇殆どドレイの生
活やリンチやその他ドレイの事、南北
戦争について書いてゐます。僕の最も
興味をひいた所だけ書いて見ます。リ
ンチを受けるこの女が股の割れている
ズロースを穿いていた為に、スカート
をまくり上げられると、ズロースを穿
いていても、お尻がすっかり皆の目に
さらされてしまふシーンが目につく
様です。七四頁の後から始まりま
す。

スチーヴンスは私を裸にしました。
出来るだけ長く時間をかけて娘の恥ら
う姿を楽しむ為か一つ一つゆつくり私
のキモノをたくし上げてズロース一つ
にしました。私は後の開いている背通
のズロースを穿いてゐたので、ス
チーヴンスはそれを見て「おいみんな
見ろよ……中略……」といった大変柔
かくてリボンやレースでふちを取つた
洒落たものだぞ、そしてお尻の方には
大きな割れ目がつけてある。これは何
だか、こいつの情夫が「こいつのズボ
ンを脱がせないで済む様に出来てゐる
んだらうて」みんなは「どきに笑いと
けました。私はこんな恥かしい言葉を
聞いて打ちのめされたような気持ちにな
りました。

—以下略—

K K 通信 第 21 号

昭和廿九年七月一日発行 (毎月一回一日発行)
発行人 吉田 稔 編集人 箕田 京二
発行所 大阪府堺区内菅原通四ノ三〇 曙書房
定 価 二十円 (振替口座大阪三四九五六番)



第 21 号

(毎月1日1回発行)
昭和29年7月1日発行
昭和28年4月17日
第3種郵便物認可
発行所 曙 書 房
定価 一部 20円

(愛情の欠乏)である。

疑獄事件は跡を絶たないのみか、買
収、贈賄は日常茶飯事と化し、選挙
ともなれば、如何にうまく違犯するか
に愛身をやつす。第一、政府が率先し
て憲法を蹂躪してお手本を示す
こういつた世紀末的世相の時代
に於て、人間の愛情からさえ放
逐された者は一体どうなるであ
ろうか。世の識者と稱する人達
が、口を開けば、他を攻撃し、

言 論 圧 迫 と 逆 コ ー ス

村 雨 晴 夫

その根本には「あらゆるもの、貧困」
に原因する慢性的症状のあらわれであ
る事は疑いをいれない。

貧困の最も大なるものは、社会的に
は(政治的貧困)であり、個人的には

る。曰く、愛読者、アブレ犯罪、XX
中毒患者、等々……。

人間本来、生れながらにして、斯の
如きあらゆる犯罪を行うべき条件は保
有している。然して、これを未然に防
止するものこそ、フロイドの説をどく
迄もなく、昇華によつてこそ、その崇
高な役目を果されるのであつて、此種
出版物は、極めて貴重な存在価値を有
するといふ事が云える。

大東亜民族の盟主という美名の下に
營ての軍閥が、如何に暴虐と惨酷の蛮
勇とを、無事の良民と大東亜の諸民族
の上にふるい來つた事が、今にして私
達は、彼等の破廉恥的行為をまざまざ
と想起せざるを得ない。彼等こそ、人
類の敵であり、日本人の恥さらしであ
る。然るに、近々十数年の過去の悪夢
を忘れ果てた私達は、今にして、再び
目に見えざる暴虐の鞭を、はつきりと
見せられた気がする。

気の弱い、お人よしの大多数の善良
な人達よ、彼等の巧みな言動に惑わさ
れないで、おこうではないか、そして、
戦時中の彼等の横暴を想起して鞭をし
めてかへらう。

自己の保全に汲々たるのは、人間の本
能として又やむを得ないものがある
が、日本人の悪癖として、何んでもか
んでも自己判断による主観の押しつけ
と、烙印を乱発するので困りものであ

最近の新聞ジャーナリズムの好個の
材料として、風俗雑誌という名の下に
出版物の性犯罪に対する影響を過大に
取り上げられた感がある。私は本誌の
一愛読者として、必ずしも公平な見方
をしているか、どうかその点は
疑問ではあるが、少くとも、冷
静に考えた私自身の判断からす
れば、功罪何れが大であるかと
云えば、躊躇なく「功」の方が
圧倒的に大であると答へざるを
得ない。嘗て、伊藤晴雨氏が「責めの
芸術」の持つ一目的として、赤裸々に
露呈されるべき人間本能の緩衝地帯と
しての役目を述べられた事があつたが
私も全く同感である。

読 者 論 壇

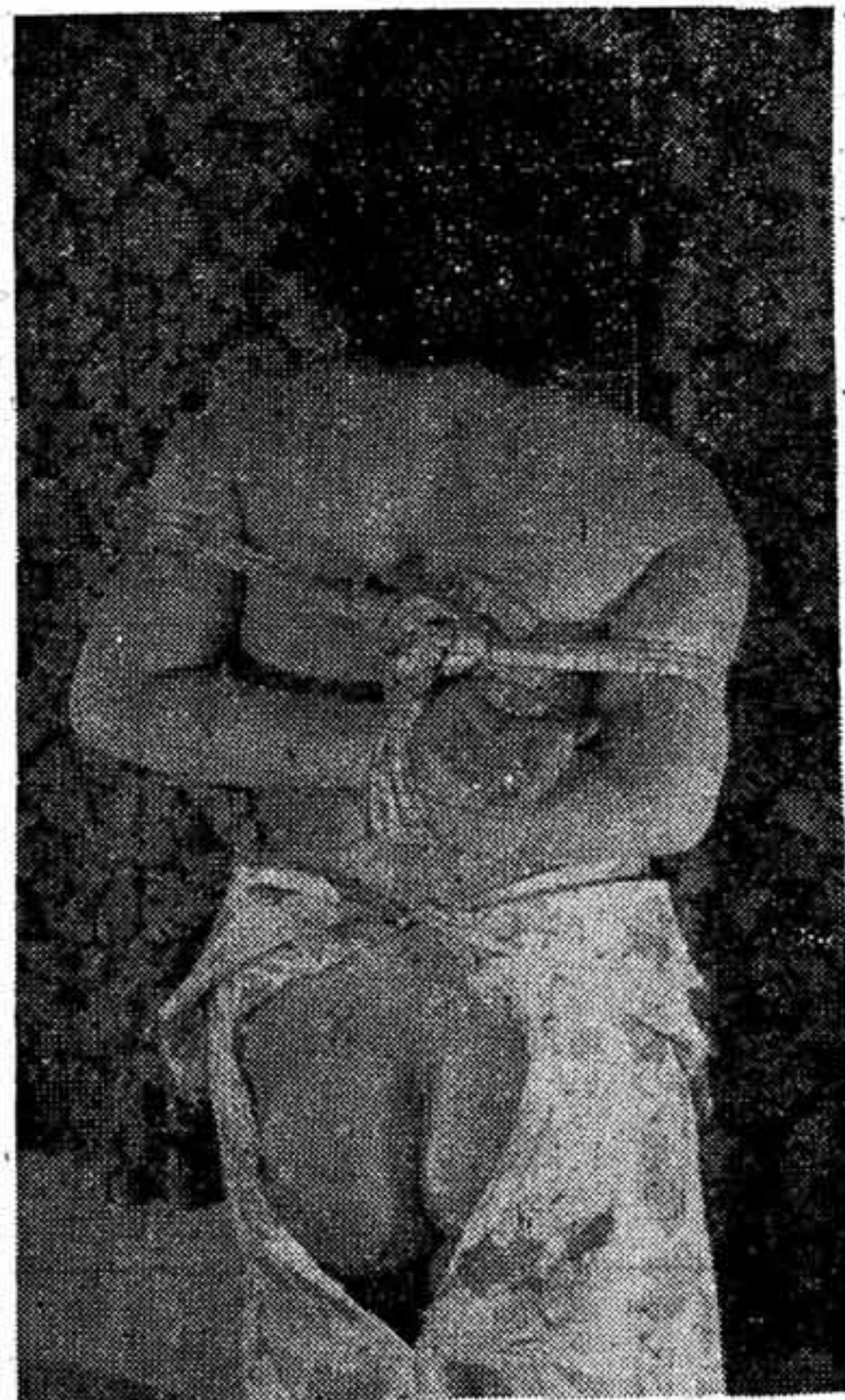
【編集部便り】
 ○りべらる旋風が七五〇ミリバール位の猛台風となつて吹き荒んだため、このところ、難波沈没する雑誌が続出した。但し、名パイロットの操縦する奇くは波乱怒涛をのり超えて、今や追風を受けて快走中、御安心のほどを。
 ○最近妙な雑誌が出た、表紙は臨時増刊の七月号、扉は創刊号というので、やおやと思つて、奥を見ると、これは又開けてビックリ、六月一日発行、ナンダイ、こりや、寄せ集めのチンチクリンだ。どうせ創刊号兼廃刊号という代物だろうが――。
 ○KK通信第二十一号が大変遅れました何んとも、はや、申訳もございませんと、平に平にお詫び致します。陽気がよくつて、遊びすぎたんじゃないやせんが、神経衰弱と腹痛が一度に編集部を襲つたため、と御承知願う次第。
 ○扱て、本誌七月号は、例月より少し早く、二十日には皆さまのお手元へ届いた筈、引続いて八月号の印刷も着々と進行中、例によつてちよつと、御扱

露に及べば、口絵では本誌の誇る二十四頁のあぶの「まる・ふおと・せくしよんが、すうり超絶級の豪華版を並べる。
 ○これを見ても、毎号新工夫をこらした逸品揃い、この二十四頁の口絵だけでも奇巧の百円は安いと専らの評判。然し、当局の眼も専らこの頁に注がれるとは、又痛し痒しの辛さかな、こゝに研究と検討の結果を結果して、新に撮影した斬新な材料を巧みに盛り上げた本誌写真部の苦心の賜、名コンビ春日ルミ嬢と伊吹真佐子嬢の「アクティヴとパシイヴの美しいポーズ」
 ○マゾヒスティックなものでは、応募された愛読者に出演を願つて、春日ルミ嬢に思ふまゝの奔放なアクションをつけて貰つた。曰く「尻に敷く」(気まぐれな弄び) (響打ち) (足台) 等
 ○外国物では、ザ・サイレント、パイパー、奇抜な手枷、首枷、それに口を掩つた白いマスクがよくきいている。
 ○お馴染の畔亭数久画伯、刑罰図譜の最後として、「管刑」「釜茹で」「鉄の処女」「ギロチン」の四頁の外、毎

号好評の「戯文戯画」は、八月に因んで「水着」と題した水辺物、といつても決してありふれたものに非らず、氏独特の奇想天外、あつと云わすもの。
 ○伊藤晴雨画伯の八月の責絵は「三叉洲の惨劇」という殺し、これは編集部の手違いで、急遽、先生に御執筆を願つて、やつと締切に間に合せて。写真では、画伯撮影にかゝる未発表の秘蔵写真の提供を受けた。
 ○細を用いない責め遊戯として、「蠟涙」と「抓り」を予定、外に「セルロイド輪利用の乳枷」という珍写真を用意している。
 ○前号と同じく、幻想的なアブノーマル画に一紀元を動すべく杉原虹児描がく、「桎梏」と題した絵を御高覧に供する。よき助言あれば氏宛へ乞う。
 ○龍慶子氏の縛り方教室、本月は向夏の折柄、ナイロンのブラウスが風になびく風情を描いて貰つた。
 ○本文では、三度書き直しを煩した「侯志津子さんの「腰触」これは藤人間の新しき着想によつた野心作、古川裕子さんはその鋭くときたまされた特異

な感覚によつて、新緑の薫風を麗人の手にキャッチした「美しい五月に」、松井鏡子さんは前号で予告した通り、「蒼朽ちて」で、不幸な結婚に染しかるべき青春を涙に暮らす佳人の被虐の生活を描いて独断場。三女史競演。
 ○変つた責めの体験としては、川田進氏の「青色の螢光燈」が光っている。病臥中の中康弘通氏が、本誌ファンのためにわざわざ口述原稿を送つて来られた。切腹物としては、「切腹曼陀羅図絵」が、ロマンチックな時代的雰囲気によつて、陰惨なるべき「死」を夢幻的に美化している。これは懸賞入選作でもある。
 ○懸賞入選作といえは、一席入選の細川美也子さんには目下、書き直し依頼中、妖虫記―は芳野眉美さんは今回半分以上に亘つて改訂を加えて送稿になったが、まだまだ差支えある個所が散見される。
 ○懸賞の告白と手記と体験、は数多くの御投稿に感謝している。個々についてはその都度直接御返事申し上げているが、公開を慮れる個所が多くて折角

浅野末乃嬢の豊満なバック・スタイル



或る耽美主義者の夢

岡田芳夫

私が「美しき縛しめ」を受取つて、その素情しき、特に「芋虫」「観念」など何度も飽かずに眺めながら日頃私の考えている責め場をアルバムに出来たらと考えました。以下は私のア

ブノーマルなファンタジーを、架空のモデル嬢に語らせた「美しき縛しめ」第二集(いや「美しき残虐」と云う題の方が適しているかも知れません)の説明です。

× × ×
 「美しき縛しめ」第二集のモデルになつて呉れと頼まれた私は喜んでそれに応じました。縛られ責められる事、それはマゾの私にとつてこの上なき楽しみなんですから……、でもこんな度は写真を御覧になれば判るように、随分苦しい目、恥しい目にあいました。でも何とも云い様のない快感を味う事が出来ました。私のいろいろのポーズを御覧になり乍らお読み下さい。
 (第一葉)責め準備
 何時もなら私がスロースを脱いでしまつてから、縄をかけてもらうのですが、今日はまだ下ばきをとらないうちにその場へ押し倒されて両の腕を後へ捻じ上げられ縄をきりきりと掘められました。そしてもう一人の人にスロースを取られたのです。全裸になる事は覚悟の上なのですが、他人に下ばきを脱がせられる辛さ、その表情が自分乍らよく表れたと思つています。両手首を縛つた縄はやがて首へ

二の腕、そして胸へと喰込んで行くのは云うまでもありません。
 (第二葉)芋虫
 高小手―もうこれだけでは物足りません。縄尻は更に下腹部を一巻きしたかと思つと、今度は下へと延びて丁度痺をした様な恰好に締め上げられました。九月号の「縛られた女ばかりの座談会」にあつた高瀬忍さんの写真の様な姿にされたのです。そして写真には現われていませんが、私の前へは縄の結び目がひつたりと当つて居るのです。第一葉は、そんな私を正面から。第二葉は、横倒しにされて後から手首と尻の辺りにピンとを合せて撮られたものです。縄目が痛々しく喰入つて居るところを味つて下さい。
 (第四葉)ローソク責め
 ローソク責めといつても単にローソクを立てるだけでなく、恥しき、苦しさを同時に味わせようとしたポーズだそう。私は柱に頭を下にして手を縛りつけられたかと思つと、足首をぐつと前に倒されたのです。体は丁度え

びの様に二つ折りとなり尻を真上へ突出した醜い姿にされました。そして盛り上つた二つの肉塊の上に百刃ローソクが立てられたのです、尻の肉を責めつけるのでした。

(第五葉) 海老責め

柱から解かれてホツとしたのも束の間、今度は両股を開けるだけ開かされて、足首を竹の棒に縛りつけられました。そして首に縄をかけられたかと思ふとその縄尻から前へ通し、後手に縛りつけられて締め上げられたのです、私の首がだんだん下腹部に近づき、やがて自分で自分の尻を見る事が出来る位まで締めつけられたのが、この写真です。お尻を上向にされた恥しい姿ですが、一本の縄がそこを通つていてくれるのが却つて恥しさを柔けてくれました。

(第六葉) 逆海老責め

前かがみが終つたら今度は後反りにされました。足首を重ねて縛つた縄が背中を通して首へかけられたのです。そして締められるだけ締められたので

すからたまりません、下腹部がぐつと前へつき出ました、第六葉は、こんな私を上正面から、第七葉は、俯伏せられて撮られたものです。

(第八葉) 木馬責め

これはもう説明の必要もありますまい、屹立した三角形の頂点は遠慮会釈なく股に喰入るのです。十四貫と云うポリウムのある自分の肉体がうらめしくなる位の痛さ……、その痛さを少しでも柔げようと身をよじろうとしても前後にピンと張られた縄は身をもがく事さえ許さないのです、苦痛にゆがんだ私の顔を見て下さい。

(第九葉) 括り猿

やつと後手から解放されたのですが今度ははいよいよ吊し責めです、最初は手足を一緒に縛りつけられそろそろと引上げられました。吊した縄がよじれて体がくるくる廻るので仲々写真はとれず、やつと静止したところをとられるまでには相当な時間がかかり、体の降された時はしばらく立ち上る事も出来ませんでした。

(第十葉) 逆吊し

いよいよ来るころへ来ました。女の拷問の極致と云いましうか、今まで意識していた全裸の恥しさを忘れてしまふ位苦しい責めです、慎重に慎重を期して僅か一、二分の間だつたんですが、一時間も吊り下げられていた様な気がして……、本当に貴重な写真なんです。

(第十一葉) 逆吊し

ローソク責め

これこそ好きでなければやれない芸当です。両股を開けるだけ開かされた逆吊し、そして、ローソクを立てられる……、考えただけでもサドならわくわくする様な責めを実験してみました、これ一枚だけでこのアルバムの使命は充分と云うところだと思います。

(第十二葉) 荒縄

今までの縄がすつかり解かれて今度は荒縄を用いました。素肌に喰入る荒縄の痛さは又特別でとてもじつとしてはいられない位です。それに上半身ばかりでなく、大腿から足首まできりきりと縛り上げられおまけに荒縄の上に寝されたのです。この縄目のあと

は今でも私の体に残っているのです。

(第十三葉) さるぐつわ

このさるぐつわは御覧の通りズロースです、私自身のものですが、下ばかりの(而も異性のものではあれば)さるぐつわこそ凄惨の極致と申せましよう。上半身だけでしたので敢て乳房の上にも荒縄をかけられ緊縛感は一層強められていると思います。

相責め と 女斗美

本誌七月号の口絵以来「縄を用いない責め遊戯」として、サド・マドの両方の女性をモデルとして、新しい責め写真数十枚を撮影して来たが今回、女斗美(メトミ)研究の第一人者土佐四股平氏から、一方的な責めでなく互いに責めあう、即ち、相責めといった趣向を進言されてきた。因に、目下氏の養成されているメトミーズの中で昨年の本誌十月号に「賜相撲」として出場した矢野山順子さんが最も優秀だそうである。

つまみ、もむのも又一興である。

この手で虐めるのも夏の酔狂には楽しいもの、コスチュームそのまゝの美しさの中に出来る高手吊責の醍醐味。特に冬場は、シヤナリ御召で日本髪でさえあるこのモダン雇居さんへの、夏責めは特に秀逸である。

「相変らずIさんのお株ネ」

と、玄人女にはそれなりの捨台詞的な面白い責対話出来るものである。

一本で自由気儘で働けるこの華子、元は生娘で、ここまでになった「人生航路」を書くのも亦一書になるであろうが、最初はパーマもかけず、お化粧もせず、手一つ掴まされ、雑誌の口絵ヌードや縛絵を見せても「キタナイ」と云つて、押しのけていた娘だつたのが、今はどうか。

「御機嫌さん」と粹な姿を現わすと、「ヤー」と手を出す。

無難作に横向坐りになつて、後手に手首を組んでその指で握手して来るのである――。

僕と商売抜きで内緒遊びの唯一の和風玄人女。

又、唯一つの洋風玄人女は、前言のダンサー輝代あり。この夏服のまゝの腋手責め、手軽で随分多いが、君江の様に、

「およしなさいよ」と変にすまし込んで平気を粧うと、僕としても引込みがつかず、つい服のまゝ高小手、首縄もからませてソックスもむしり取ると両足首も重ね組合わして、ギリギリ巻にした縄尻をひざ一杯に折り曲げて、臀の上で小縄につなぎ合はせて、一締めの上のうしろ四肢縛りで転がすと。

「相変らずの惨忍性ネエ」と毒づいたあと。

「チツトモ動けないワ、どんな縛り方なすつたの？」

とあきれた顔付で、まだ平気を粧う君江も又愉しき女。

こうした着衣のまゝで日常の責と云うと、枚挙にいとまのないもので、僕の行動自由内の家屋の内、及び車内はこの場合抜きにして映画館内とか街路公園、焼跡等から話をしてみよう。

まずランデブーか、アベックの場合合相手の女が「縛り」を意識するとせ

ぬにかゝわらず、一応腰縄型に後ろ手に両手首を組合わして、片手持で連立つことである。それでも「変な恰好ネエ」とか「何かしはられてるようヨ」とか云つた場合。

「そうだよ、僕の愛の縄目だよ」

と、そのものズバリで一本喰わすと大抵「ホ……イヤネエ」とか「マア……」位で、行き交う人さえなければ別に反抗するものはなし。

然し、責を意識している女が、ズク惚れで、どうでもして呉れの殉情型なら、高小手型に背中に組合わした手首を掴んで、下からグイッと肩先までもと引上げて「イヤ……」と一声は悲鳴をあげても、抵抗のないのが常で、せいぜい「ホントに痛いワ、勘忍して……」位でしまい。そして僕が手を離しても後手の姿はそのまま、体を少し起こす程度と云うのが多い。

所謂、女性本質性と云うのを利用した、マゾの第一歩は胎動して行くわけである。勿論、僕の片手は臀の玩弄が始まるわけであるが、諸士も既に御承知済でもあるが、臀、尻と一口に云

つても手さわりの点からも軟らかいの硬いの、大きい、小さいのと千差万別、大きい扁平型の君江、突出し型の(チ)八重野系、垂れ型の(リ)ふみ子系。柔軟性と云つても、弾力性の美智系から、ボチャボチャの浜江系、絹肌の松本系、綿の様なエミ系、ネットリ肌合の鈴子系からサラリ型の秋子系、クネクネ流の(ル)正子系。

切、硬い臀、と云つてもプリツと張り切つたみさ系、筋肉が生々としたたか子系、スプリング型の華子系、円いボール型の極上品は(タ)久江、(ホ)照子、等一番少ないわけで、いづれが好きかは、又各人各様であるが。

刺き出した臀を見て、全く美味そうなのは仲々ないもので、又ビシリツと平手打の二つ二つも快よいと云うのも又少なく、いつまでも余情の残る臀ともなると、秘書、松本、照子、浜江鈴子、外十指にも足らぬものである。

前言の四人の臀を愛撫した残は、いつまでも僕の指先に彼女等の肌が生き残っている様な美味さである。



ボクの責め方

(十三)

宝塚二三夫

(イ) 秋子、(タ) 久江、(ウ) 和子、(玉) きみ子、(N) 秋子、(V) 幾子、(W) 肖子等は、又取りどころのある事は後記でわかる筈である。又コスチュームと責で梅雨あけの夏姿袖無しのニュースタイルのエヴァグレイス。大きく派手な格子縞のワンピースを着て久しぶりで「アラ御機嫌ね」と、現われた華子の両手を、「肉体の門」のマヤよろしく僕の部屋の欄間に吊り上げて「玄人女らしくパリッとはいた濃茶のナイロン登下をスルスルと脱がすのを忘れずに、問題はわきの下。「剃らないのか？」

と、モシヤモシヤと生えた柔ら毛を

(四) 責めのアイデアを「三呈します。その一、ハリツケ(緊縛、ハシゴ利用付にても可)の際に、鼻をハリガネで上向けにつり上げ、而も顔を上に向けず正面にむきむかせた形のもの。その二、人間食卓の画。(写真はむりでしょう) テーブルに全裸の女が大字にしばりつけられ、その身体の要所々々に、肉、チーズ、魚、野菜がも

を感じさせずにはおきません。「唾の洗礼」と題して唾をかけられた女の顔を大写真にして掲載して下さいませんか。あるいは、文学的作品にしても面白いでしょう。撮影に当っては本当の唾ではなしに、泡立てた後のシャボン水で間にあいます。粘性をつける為にクズ粉等をいれた方がよいかも知れません。

めではないかと思ひます。縛られた女の前で「お前に洗礼を授けてやる」等と言いつつ、両の手で唾を充分につけて、その手を女の顔にあてるのです。可愛い顔が唾でグチャグチャになるのは、サソの側でもマゾの側でも異常な興味をおこさせるでしょう。又は髪の手をつかんで、顔にしたたかに泡立つ唾を吐きかけてやるのも、残酷な喜び



藤見氏の気の弱い

サディストに付いて

渡辺乃介

本誌七月号の巻頭に発表された藤見氏の「ロマンチックなサディズム」を読んで、氏と同じサディストとして私も同様の意を抱いたものであります。藤見氏のおつしやる気の弱いサディスト云々なる言葉が、私にはなにかびつたりと合致する点があります。それは各人各人の個人差に属する事で、同氏の告白文中に述べていられる如く、かろい意味でのサディズムだといえは(同氏の言葉をそのまゝかりると)「妙子……妙子……」「耳もとでやさしく呼ぶと「うん？」といったあどけなく私の顔をみあげるのです。「もう帰さないよ、もう絶対に……こんな可愛い君を放せるもんか。帰さない……帰れないように手と足を縛って置くかな」私はやさしくこういって、腰紐で妙子の両手を後手に縛り、足も又、固く

くゆるなく縛りあげるのであります。云々。とあるように一人の女性を自分の思うまゝにするというサディストの独壇場裏と、私には考えられる場面です。から別に虐げるとか、非人間な拷問の怖しさで眼を覆わしむると云つたような事ではなく、同氏の述べられていられるように女性というものは、表情や身体全体で言葉以上に物語る事が出来るというように、女性の肉体を明るく美しく描写されたと思うが、やはりサディズムという心境は相手方に何責作用の(肉体のあらゆる部分にわたり)機能と効果とを最大限に動員すべく、例えば藤園吉年氏が「悦唐回想録」の中で述べていられるように、怪奇な性的倒錯者の秘密を語るには敢て渾身の勇気を振って告白をされたとの、あの作品中のクライマックスともいふべき

【本誌伏字考】

戦時中の誰やらさんが獅子吼した文句そつくりの「……断乎、絶滅する決心であります。」という事になると(尤も一旦断にでもなれば、ネズミのように大人しくなるものだが)一寸した文句でも、これはワイセツだなんて文句をつけてくるので、油断もスキも見せられない。然し、彼等も所詮サラリーマン、官仕えであつてみれば見かけでも仕事をしているように見せかけないと、「此の頃、ナマケチヨルゾ」という事にもなりかねないのであるから、哀れでもある。

さて、そこでだ、愛読者諸君には、ちゃんと判断がつくが、世のボンクラ共(怒り給うす)には、何んのことやらチンプンカンプンでわからん、といった伏字があつたなら、——ということになるわけだが、先日、或る熱心な読者から秘伝を公開してきた。但し日本人にはお節介とスパイが多いので若しバラされると、ちと、困りにけりということになる。

昔の軟派本を見ると、金貨殆ど××や○○だらけ、というのがあつた。所々に、「の、は、へ、」といった助詞めいたものがあるだけ、といった何の事かわけのわからぬ珍妙な本もあつたが、その時代から見れば、現在では言論の自由の時代で有難いといえる。そこで本誌の伏字だが、余り目立たせないという方針から「……」を用いている

本誌を毎号読んで下さる方なら、前後の文脈から判断して頂けると、いう程度、並にその伏字の箇所を抜いて読んでも、意味は完全に掴むことが出来る程度といった狙いで、それこそ数十度の読み返えしの結果、決定している。面白半分、興味本位にやつていくわけではない。

理想を云えば、伏字しなければならぬ描写を最初から避けるのが賢明であるが、鵜の目鷹の目でアラ探しをやつた結果、主観的な独り合点で気を廻し、解釋を擴張し(はつきりそういつている。逆コース時代なれば)なんでもない事、なんでもあるようにゴジツケてくるので、やはり誤解を避ける

その場にとりまく人々、群集、又は適当の人物を適配すること。(M生)

処を再び廣園氏の言葉をかりうけて言うならば「フフ……こうすれば粗相する心配もなく、ほらネツ」あ、それは何んという恥しい事でしょう。彼女は童恥に身を悶える私を無理矢理に押えつける様にし乍ら例の粗紐で縛り彼女は、その上その粗紐の長くのびた他の一端を手にすると、やたら私を引立てるのです。「さあ愚図々々してないで早くとつととお歩き」彼女に粗紐をとられて、よろよろと引かれて行く私の姿……。もう一つは終りに彼女が男を世にも哀れな姿に括し上げると「歯を出すんじやあないよ。間違つても妾に噛みついてたりなんかしたらそれこそ承知しないからッ」諸兄姉には大方のお想像はつく事と存じます云々等。一男性のマゾヒストと女性サディストとのあまのなき告白が情景と共によく描写されている点において、私はこの方の勇気ある発表に目をみはつたのです。以上で始めにもどります。が気のすむまゝに苦痛を与えてもそれ等の人々の異なる表情と苦痛のうつたえかたに尚一層の興味が湧きます。同氏

の云々としておられるサディズムを求めたの映画に、責め写真に絵画に女性に対する方法は、いたる私ではありまが全く同感です。私の絵を「三奇ク」の編集部の方へ送っておきましたし文章の方も前文のように拙いですが貴殿と同程度の「奇譚クラブ」を通じてのサディスト、いや気の弱いサディストだと想います。氏の云つておられるように奇譚クラブの存在を知るまでは、自分のサディストすら自覚せずとつそりとその幻の愉悅に浸る事に依つて、多忙な人生の安息を見出して一人ですが、本誌を手にとるようになってからは人生の憩いが与えられ、単調になつた性生活に、心よい刺激を得て人生を豊饒に送る事が出来ると云えます。氏も心から思われるように、私もオール精神と全身体を打ち込んで毎日を愉悅しその活動力によつてエネルギーを燃え上がらせて奇譚クラブと共に生きています。ロマンチックなサディズムに生きる同好の皆さまよ、共に手をつないで楽しい人生を過そうではないか。

ために、最小限度の伏字は、口実を与えない為にも必要になつてくる。
KK通信第十九号にも一寸言及したが、「内股の肉を張り廻した」というのが、ワイセツ罪に抵触するというのだから、全く驚いてしまふ。どこがいけないかと、すつたもんだの追求の拳句、「肉」というのがいけないのだ、と白状した。馬鹿らしき限りだが、今後は、「肉」を敬遠して、——内股……を張り廻した。——と伏字したらどうだ。一頁分全部××とした二十年前の編集者を笑つてゐるが、あと何年

雑報

○皆様の要望に応えて、縛られた女のアルバム(第三集)新趣向により近々お目見えします。詳細は本誌九月号に発表いたします。御期待下さい。
○KK通信に掲載の報告、研究、会友通信、告白等いろいろの短文をお送り下さい。責給も自信のある方は投じて下されば出来る限り掲載いたします。
○本誌十月号は、秋季特別増大号として、定価百四十円に値上げの上、口絵

かしたら、きつと、こんな事をしなくては出版出来なかつた我々のことを腹を抱えて笑う事だろう。
編集部員だけが、たつぷり楽しんで読者には伏字したものを読ませるのは怪しからん、というお叱りがあるが、中々どうして、発禁か、否かの鍵を握つてゐるだけに、数十回読み返して決しかねたというのはザラで、まさに神経衰弱的な嫌な仕事だ。寝そべり乍ら読まれる諸士よ、我が辛さを察し給え。
(T・T生記)
本文共、大増頁する予定です。今迄温存してあつた、とつておきの秘写真、秘稿を一挙に放出する筈です。
○本誌八月号は順調に印刷進行中、例月通り市場にお目見えします。予告ばかりして御本尊の出ない雑誌が多いのですが、どうか、そういうあやふやな雑誌と一緒にしないで下さい。
○KK通信第二十号は、代理部便り特集号として、本号に引続いて御手元へ届ける準備をすゝめています。

「責め」アイデア断片

編集部へ送つて来られた同好者からの「責めのアイデア」の中、面白そうなるものを拾つて紹介しよう。投稿の中の多くのものは、既に写真に撮影或は絵となつて、本誌の口絵なり代理部の扱いになつてゐるが、これから紹介するものによつて、更に新しい着想が生れて、続々と投稿されるようお待ちする。そのまゝでは到底公開を許されぬものは一応、除外して、先ず小道具を巧みに用いたものを挙げてみよう。
(一)責めのアイデアの一つとして「ゴムマリ使用の方法」昨年六月号の芝氏また九月号の羽村京子さんの文にゴムマリを責めの道具として使用する事が特に詳細にわたつて述べられて居りましたが、私も従来よりこの方法に関心をもつてゐる者で御座います。もともと私ののはゴムマリを十二の道具として用いた事から出発してゐるものですが、私共のやる方法といつても矢張り羽村氏の如く、アノヌ責め、

またはワギナ責めに類する事なのですが、ゴムマリはビーチボールと名付けられて市販されている十二吋乃至十六吋直径の極めて大きなものを使用致します。この位大きいと、中に入る空気の量も多くまたゴムマリ自体も柔軟であるばかりでなく強い収縮性を持つてゐるので責めの道具として極めて好適です。先づ空気を吹き入れたり、吹き出させたりするゴム管(ボールについてます)の先に木製の挿入具を作ります。これは工具であるヤスリの柄等に上面ゴム膜を張りつけます。そして中央を貫く孔をあけ、下の細い所に管をさし込み空気のもらぬ様に縛ります。女体を先ず後手に縛り次にまた空気を入れていないゴムマリを、股間にはさませて足首を縛ります。なるべくゴム紐の太いのを以つて縛るのがよいと思ひます。此の場合の縛り方にも色々ありますが、柱に縛るとか椅子を斜にしてさかさに縛るとかこれは現在迄に奇ク誌で色々写真なり絵なりで発表された姿態がありますので、それを応用しては如何です。私の経験では、足首を

以つて吊る方法(勿論下半身のみ)が一番よいと思ひます。そうしてから空気ポンプ等を用いてゴムマリをだんだん膨らませる。すると、縛つたゴム紐のかけ方によつて緊縛の度がだんだんと加つて女体の肌に喰いこんでゆき相当の苦痛を与えます。そうしてゴムマリが充分膨張を終つたら(羽村氏の述べられた様に、十四時に作つたものなら十六時迄はふくらみます)ゴムマリは股で充分しめつけられてゐるので空気が挿入具の口から、激しい勢で噴出します。その勢を加減することがぜひ必要です。縛り方を色々工夫し、ゴムマリも一つだけでなく二つ、三つを用い膨張力の足りぬ時はフットボールの様に二重、三重のゴムマリを使用するとなかなか興味深く、刺激も強いものです。以上述べましたことからは、別段目新しい事ではありませんが、此のアイデアを幾分なりと加味したものを今後、発表願えたら私の最もよろこびとするところで御座います。
(AK生)

(二)先ず第一は、後手に縛り布袋に裸女を詰め込み、口を封する。これは真実自由を奪われた若き女が一個の荷物化した悲愴な表現で、布地が薄ければ一層面白く企画しよう。第二は、後手に縛つた女の鼻をL型の金具で吊り上げたポーズ。被褥を目的としたポーズでU型の先端に綿を巻きつけ、両鼻腔にさしこみ正坐(膝を縛り置く事)又は、中坐、直立させて吊り上げて置く。第三は、全自由束縛、両手両足は勿論、耳、鼻、舌、肛門等、全腔部を綿または何かで閉塞する。大変変つた妙な構想ですが、小生モデルを得られれば実際にやりその感想を基として一風変つた興味的な小説的なものを創つてみたいと思つてゐます。勇敏に申出て頂けるモデルの方を急願し、この夢を育て上げる日を夢みて。
(桜一郎)

(三)唾の洗礼。サド、又はマドの行為として唾をなめさせたり、尿を飲ませたりするのは雑誌等で見かけますが相手の顔に唾を吐きかけてやるのも相手は処女の場合は案外刺激の強い辱し

会友通信



六月号は久しぶりに「奇々」の面目を取り戻したものと云えましよう。新人モデル萩さんの加入と細の四十八手は写真の庄巻、細の四十八手は今後共続けて掲載して下さい。凡ゆる縛り方責め方を各方面から写して組にして頂く事は非常に参考となり、又眺めていても凡ゆる想像が出来て楽しいものです。龍さんの絵は一寸物足りなさを感じます。もう少し細を多くする事が縛りの必要条件ではないでしょうか。

本文では辻村さんの「緊縛の構成と責めのアイデア」を最も興味深く読みました。縛り写真の出来る迄の苦勞がよく解る様な気がしましたが、只縛りに時間をかけても写すのは一瞬であるから云々と云うところは首肯出来ずが私共は少し面倒でもやはり身動き出来ぬ位に厳しく縛り上げたものを望みます。是非辻村さんに御一考賜りたい

と存じます。川端さんには早速私の希望を入れて頂いての御執筆感謝致しています。来月号を楽しみにしています。沼田さんの久しぶりの登場、而も「アイヌスいじめ」という題名に期待しましたが、大分カットされましたね。此の次は是非傑作をお願いします。

又そろそろ新しいアルバムの欲しい頃となりました。殊に三月号の事件以来、本誌の写真が稍低調になりつつありますので、一層アルバム等の特別刊行物に期待する事大であります。今度の試みとして次の様なものは如何でしょうか。「モデルアルバム」とでも名づけて、各モデル嬢(もう二十人近くにも及んでいる様です)毎の特写アルバムです。先ず各モデル嬢の「始めて縛られた時」の写真を載せ、次に各モデル嬢が最も得意とする縛られ方、責められ方を出来れば正面、背面の二

態宛位を發表して頂き度いのです。川端さんには逆さ吊し、坂口さんには股間縛り、村田さんには戸外での吊り責め等、きつとモデル嬢も喜んで引き受けて呉れる事と存じます。

そしてそのコンクール投票を行うのも一興でしょう。尚モデル嬢の簡単な略歴、体重、身長等を併記してもらえば完全な「スターアルバム」が出来ましよう。いろいろ難しい点もありましようが、編集部の皆様の御盡力をお願い致します。(Y・O生)

女が女を責めるプロマイドが作成されてKK通信に出ました。実は変化があつて面白い御企画と存じます。久しく待望していたのがやつと実現されうで、双手をあげな御迎致します。従来余り女性ヌードの縛りだけで全く変化がなくて物足りなく、且つ責めのアイデアも殆んど出つくした観がありました。今度の御企画には相当のバラエティが期待されましよう。

ただ此の場合オールヌードよりは責める方が着衣で、責められる方がヌー

ド。又これの反対でどちらか一方だけヌードにした方が刺激が強いかと存じます。この種のアイデアとして別紙二葉の略画をお送りして見ました。Aの方もBの方も鎖で縛り管を打たれんとする責めのアイデアです。Aの方は責めの手は上半身と下腕を露わにしている一人の場合です。Bの方は一人対二人の場合を考えて見ました。(画略)

(越南生)

僕は常に露出した臀部を鞭打又は凌辱されたいと願ったり、女性の排泄物を飲食したいと願う二十六才のマゾヒストです。自分の緊縛ヌードを人に見せたいと云う衝動に悩むものです。全裸にされて手足を縛られた儘逆さ吊りされたり、両脚を大きく開いて別々の枝に逆さ吊りされたり、いたすらされたりするのを願っている変態男です。多数の女性達(サジスト)の共同慰み者となつて奴隷教育を受けたいと熱望しています。女学生寮や看護婦寮若しくは娼婦達の様な処で飼育される夢を見ている男です。勿論特定の女性

△珍万妖集▽

大伴馬鹿持・編

○猿轡後手乙女が泣けば心も萎ぬにサード思ほゆ (柿本下手磨)

○鳥の毛のくすり責めは辛くあれど大宮乙女細解きかね (柿本下手磨)

○見れど飽かぬ美女の肌のいましめ解くることなく復還り見む (柿本下手磨)

○吾はもや安見見縛る皆人の責めがてにすと安見見縛る (藤原鎮足)

○鞭待つとわが恋いをればわが胸の細目きびしも秋の風吹く (鞭田王)

○験なきものを思はずは悦唐のうまし乙女を責むべくあるらん (大伴責人)

○女ばかり四十年も責めて来し伊藤晴雨の言のよろしさ (大伴責人)

読物とはこの事なり、願わくば一度その様な人を拝見致し度いし、又こん後この様な海外もの、紹介はどしどしやつてもいい度いと伏して懇願する。変性男子の告白を読んでいると、落語の筋書きに書き足した感じがする。

○縛られて日長くなりぬ誰をかも呼びにか呼ばむ泣きか泣かむ (阿氣礼姫皇后)

○責むというも責めぬ時あるを責めじというを責むとは待たじ責めじといふものを (大真尊女郎)

○苦しくもしめくる細か緊縛胸のわたりに細もあらなく (長谷部部蘇麻)

○家にあれば鉤吊る阿魔を草枕旅にしあれば椎の木に吊る (有馬童子)

○今更に何を語らむ猿轡口をば君にふさがれしものを (魔尊女郎)

○あかねさす紫野行き引立ては野守は見ずや君が細尻とる (鞭田王)



男から女に転向して女性ホルモンを一年間も注射す、そして恋人が出来て結婚の申込み、何んだか微笑を禁じ得ない。責めの自画像、自分の母を責めるとは何かしら割り切れぬ気持がする、第一にネズミ責めなんて本当に出来る

のか又寒中の水牢に氷を入れての水責め、現実にはながして想像の域を出ぬ作品の感を受ける、以上はワッラウツラとボートを漕ぎ乍ら一読して感じた事である。

腰巻

萩 千恵子嬢

の専有も差支えありません。徹底的に汚され、もて遊ばれて虐められる事を妄想し快感を感じる男です。骨を折られたり刃物で傷をつけたり等しい限りどんな方法でも良い、責めて苦しめて呉れるサジストの女性ならば四十才以下何の条件も求めません。僕は奴隷の身として女王様の命令には絶対服従します。一年でも二年でも契約制で雇って呉れる女性の方はこの僕を呼びつけて下さい。僕は喜んで女王様に身も心も一切捧げます。(鈴村久彦)

○

純な同性愛の方を求めつつも姑息なせいか、真実の意味で理想の方にも出逢う事もなく何かしら物足りぬ日を過して居りました。前月貴誌三月号を拝読致し何かしら心の中に明るさを感じました。此の度広島出張の御四月号を賞求め、唯一人旅館の一室にて心ゆく迄読しました。その節紙片にいたずら書したのがカバンの中から出て来ましたので同封します御笑い下さい。四月号の天泥氏の提供のものに心を引かれたが、女の方の迫力に対し

て男の方が単純である様に思われますが如何でしょうか。然し私はマゾではありませんで男の裸体のみに興味を覚えます。もう少し男の裸体写真を加えていただけませんか、尚地区別に愛読者の支部があつても良いと思われののですが如何でしょうか。先ずは乱筆にて益々御発展の程念じつ。左は広島でのいたずら書きです。御笑覧の程。

今日の満足は明日の不満と交つて行く、私の心の隅に眠っている野獣性？いな、それ以上のノーマルの怖れるもの。理解なきままに過ぎて来た私が、一瞬の恥に似たりより歓喜を生んだ、心ある友の告白。それは君が生命であり、私の生命でもあつた。数行の文字により、連想されてゆく、未知の世界への悦楽、お、離しがた福音の書「奇ク」よ。(澄水生)

卒直に希望を述べますから気を悪くしないで下さい。私の最も好きなのは小坂氏や沼田氏のもの、様な、普通人

でもなりそうな趣向が思わせ振りでなく大胆に書かれたものです。何の飾り気もない処に実感が伴い気持ちよく感じます。学者の様に理窟張つた沼田氏のものや、変態を正常化しようとするかの如きこじつけがましい鬼山氏のもの等は嫌いです。特別変態者の告白である古川氏の様なもの、後に病的な暗い気持ちが残つて好きません。小坂氏や沼田氏のものには陰鬱や闇の女の生活を書いていてもさっぱりして、いやな濃が残ります。吾妻氏のものも好きですが時々理窟張る処は嫌です。御誌を購読するのは何もこれによつて変態を正しい様に理論づけて貰おうとか、芸術を求め様と云うのではありません。唯気楽に慾望を満たしてもらえればこれで良いので、変に正面切つて理窟をこねられると反つて嫌気がさします。この意味で本月号の辻村氏の「緊縛の構成」と貴めのアイデアは興味深く教えられる点も多々あつたのですが、意に充たない点もあります。特別の研究者や嗜好家はともかく、一般読者は縛りそのものよりもこれによつて表わされる

美しい肉体や緊張したポーズを求めているので、狼せつ云々よりも、とにかく望んでいて容易に得られないものを見せて頂ければ結構です。芸術品を得る為であつたら外に適当なものがありません。適当に当局の圧力をかけ読者を善導して下さる事は結構ですが、一般愛読者の求めているものは何であるかお考え下さい。口絵挿絵で好きなのは畔亭数久画伯のものです。細を少なくして自然の儘の姿態美には強く共鳴致します。緊縛絵を好む者は多いでしょうが細をつけなければ承知しないと言ふ人は幾らも居ません。あの新鮮な好ましい麗筆を口絵に挿絵に思う存分振つて頂きたいものです。尚変態的要素を含んだスリルに富む探偵物や、最近新聞紙上を賑わしている事件の報道や特殊地区の調査報告等も掲載して頂きたいものです。こん後の希望を少し述べさせて頂きます。まず第一に緊縛写真の一覧を何かの方法でお示し下さい。先に「奇ク」に発表した様なもので概略さえ解ればよいから不鮮明でもKK通信にでも挿入して下さいれば幸い

一頁下段二六行目) たつぷり濡らしてたじやないか(二〇三頁下段二五行目) 彼女は元番に熱く震えながら、男にほしく体をこすりつけて行つた。と男もそれにこたえるように、ぐつと腕に力をこめて彼女の弾力のある腰をしびれるようにきつく抱きしめて行く。すると垂矢子は喘ぐような息使いをしなから段々又体が痺れて来るのだつた(二〇五頁下段二五行目) しつかとおさへ、腰を(二〇四行目) いたパンティ、脱がして(二〇六行目) パンティを(二〇七行目) なくなつた白い裸身(二〇八行目) パンティをひろげる(二〇九行目) その純白のパンティの股のところが、まるでお小水でもしたのではないかと思われれる程、濡れて色が変つていたのだ(二一〇六頁上段二行目) 彼女の生理的分秘物で濡れたそのパンティを(二〇九行目) 可愛がつて(二一〇五行目) 太股をあらわに(二一〇六行目) が男は実に巧妙に、刺戟に敏感な部分を擦つて来る。

(以上)

六月号の迷評



宮川

うらゝかな五月の陽光を一杯にあびて、緑道に腹這いになり今貰つて来たばかりの「奇ク」六月号に目を通す。まず目に飛込んで来たのは伊藤晴雨園の「良弁龍の狂女」、何時も乍ら昔々の責め絵である、向きの時節柄原味を満喫して呉れて結構である。雑誌は何と云つても口絵と挿絵が第一であると思ふ、小生等は口絵や挿絵を見る為には雑誌を買う様なもので、如何に本文が良くとも口絵のまずいものは買ひ気がしないし、挿絵のろくに無い様な本は読む気がしないが、この様な傾向は小生だけだろうか、其の点両方を兼備している「奇ク」だけは毎号欠かした事がない。妙な講義などして許容の程。何時見ても見飽きないのは畔亭数久氏の絵である、獨特の構想とその筆致で

描かれたこの絵こそ毎月待たれるなにより期待を心より満たして呉れるものであると共に、貴誌には無くてはならぬ口絵ではあるまいか。願わくば読者一同の期待である色刷りを、たとえ一頁たりとも掲載して戴きたいと念願する。抑、本文初頭の「緊縛の構成」と貴めのアイデアは、我々読者の希望並意見に対し実際にヌードを駆使して写真の構成に当る編集者側との見解の相違の分析として具体的に詳細にわたつての解説は大いに参考となりモデル嬢を実際に緊縛して構成をする編集者がうらやましくたまには交番して貰いたいものである。又、股縛りは最初の癖恥が過ぎると腰股縛りを好む云々は我々青年の多感な血を沸かすものである。

「美しい暴君」を見て、巻頭に小説の中には自「陶酔の対象としてマゾ趣味に性急な余りやゝもすれば想像の女性を拉し、誇大に過ぎて女性の魅力さえ描き得ない儘打や血なまぐさい残虐を強調される傾向が多い、と云う一文は正に我意を得た表現で大いに共鳴する処であり、馬族氏には敬意を表す。美貌の女性(作者の言を借れば女神)の術中にするる陥つて、愛人の位置から隷属の境遇に落ち乍らもそのとりことなる彼、若しそ云う女性が現れたらどうだろう、自分もその様に成るのではと空想にひき入れられる。海外サディズム雑誌「服装の利用」まず写真を見てびつくりする、よろめくスカートをはく女、ウエスト十三インチのコレットをつけた女の写真を見ていると何かしらピンと来ない、空想の世界の事を夢見ている様である、それ故大いに興味を感じ貪り読む、足枷をしてちんば歩き、間抜けステップのヨチヨチ歩き想像するだけでも微笑がこみ上げる、又十三インチのコレットをして日夜起伏する、と興味満点の

伊呂波仁補遺抄



(四八頁上段一七行目) すつかり裸にしてしまつと(五七頁下段一行目)するとだんだん興奮してきました(同七行目)右手で私の下腹部の上を二つばかり軽く叩いて(同二〇行目)二度目に軽く叩かれた時ははらしく快かつたのでうつとりしますと(五八頁中段七行目)全く素晴らしい気持ちになりました(同下段七行目)快感の頂上になると同時に(百八頁下段二行目)きよ美は向う向きになつて三木の胸の上に足をひらいて腰かけて居た。三木の上半身が蒲団からはみ出して居た(二二四頁下段四行目)性的な(二一五頁上段三五行目)に抱き崩すように(同下段一行目)長くはげしい口吻けの下で(二二六頁上段二行目)前

面を隠(同下段四行目)腰をグツと、腹の上に(同六行目)下半身を(同五行目)の一部(二二七頁下段一六行目)陰阜と呼ばれる(同一九行目)陰阜すれ(二二九頁上段五行目)快感はすばら(同二二行目)性感の(同下段二三行目)性交そのものを(二二〇頁上段二五行目)の快感が(二二二頁上段一九行目)相互手淫

(四一頁上段一行目)私の手がそのまゝ肩に觸れるか觸れないうちに、妙子は仔鹿のように小柄で、そのくせすつしりと重みのある身体を投げかけてくるのです。私は愛おしさがグツとこみあげて、妙子の背を撫でます

(同四四行目)私を愛し信頼しきつている妙子は「なんだかいやねえ」などと云いながらも大した反抗もなしに縛られます。もう妙子の心は二人きりの夜に酔っているのです

(同中段九行目)縛つた女性を布団の上でゴロゴロ転したり、上からのしかゝつて、顔中キスの雨を降らせたり、身体中を歯型のつかない程度に咬んだ

り、大のようになめまわしたり、時には平手でお尻をペタペタ叩いたり、そういう愛撫で私の前戯は終るのです(六六頁中段一行目)性的興奮して(八二頁下段一六行目)仰向けになつて(一二六頁上段九行目)又、切ない呼吸と共に吸い込まれる彼女の強烈な体臭や、更にはその甘酸っぱい様なにおからしい様な異様な味覚に陶酔する狂気の相模はどんなにかグロテスクな醜い(一三三頁上段二行目)それは例えは、彼女が私に対してグニンリングスの奉仕を要求し、且つそれを実行させた」と云う事であり、又更には「彼女の為に、他ならぬこの私自身が、トイレット・ペーパーやチエンバーボットの代用をさせ務めさせられた」と云う様な事なのです(一三三頁下段一六行目)キリキリと締め上げられた首の苦しさと切なさに、嫌でも仰向かされた私の顔を自掛けて、恰かも雪崩れの襲うが如くに覆い被さつて来る彼女の素晴らしい肉体、そして、映画のクローズアップも斯くやと思わせる様な凄まじさを以てグングンと迫つて来る神々

しいばかりに美しい丘陵。こうして私は、それこそ一瞬の躊躇をすらも許される事なく、其の例え様もない芳醇な香気と妖しい味覚とに正体もなく酔い痴れて行くのをどうする事も出来ないのです(同三三行目)彼女の重く柔かな肉体に依つて完全に息の根を止められた(一五六頁下段一八行目)燃えてくる、やきつくさ(同一九行目)夫は子孫を、男性の(一八九頁中段七行目)みどりはアツと身悶えして、これも弓子の首に廻した腕に力をこめる。自然に一人の顔が近付き、吸い付けられた様に唇が重なつてしまふ、そしてそのまゝ何時迄も離れ様としない。互の手が互の胸を、腹を、股を擦つて這いずりまわる。そのしびれる様な感觸に身を浸して居るうちに呼吸が弾み肩が波打ちはじめ(一九二頁中段一四行目)やがて目のくらむ様な快よさに身うちが灼けてじつとして居れなくなり渾身の力をこめてみどりの胸を抱きしめる。思わず不覚のうめきもあれる。そして最後には氣を失つたものの、様にぐつたりと崩折れてしまふ(二〇

です。第二に時事数久画伯の画帳を発行して下さい。装釘は先の喜多氏や三条氏のもの様な豪華なものではなく、薄表紙でその分だけ画を沢山入れて下さい。画は毎月「奇巧」に発表している様なので結構で、出来れば文も入れて下さい。画の内容は読者の希望も結構ですが、第一集は画伯の好みによつて思ふ存分腕を振つて下さる様お願い致します。

「児島雄彦氏に贈る」何月号だったか忘れましたが、児島氏の執筆された、「悩ましき切腹願」全く感激して読みました。私がこの世に生を受けてより現在に到る迄の過程を申し上げます、それがそつくり児島氏と軌を同じくして居ります。此処に私の夢を御送り致します。仙台の何処かで読んで戴ける事と確信致して居ります。

・戦国時代も終り、世間がやつと落付き平和を取り戻した伊豆の山奥で、一人の旅人が道に迷ひ深い杉林を通り抜け、眼下に見渡す限り広々とした海を見下して、こんな処があつたのかと思

われる様な明るい芝生、その真中に戦国時代をよくまあ無事に過して来たと思われ様な豪華な屋敷が一軒、静かに横たわつて居る。旅人はそこで一先ず疲れた体を休ませてもらうべくその家の門前にたゝすんだ。案内を乞うたが返事がなくおそろおそろ屋敷内に進んで行くとき美しく手入れされた庭、あけ放たされた窓々、全く立派な建物であつて目の前にある小じんまりした建物そこにも人は居らず洗い清められた風呂場は絵画独特の香しいかおりを残している。本屋の階下にも人は一人も居らずと見上げた二階の手摺に手拭様の白布が風にひらひらと動いているのを見付けた。手拭にしてみれば長過ぎるかと見つけていると布の先に赤い鮮やかな班点を見付けて棒立になつてしまつた。手拭と見違えたのは真新しい晒の襪であり、そこに付いている赤い班点はまだ付いて間もない人間の血潮なのである。旅人は身をひるがえして二階にかけ上つて、そこに繰上げられたこの世のものとも思ふ様な一瞬息が止つた。目の前に上半身肌ぬぎになつ

た十四、五才の少年が二人、一人は背中を上につぶせに、他の一人は仰向に倒れている。見事な切腹だ、可愛そうに転つて居る小刀には真白い血が一杯にキリキリと巻き付けられ血潮に濡れている。その向うの部屋には三枚も敷き詰められたどんすの夜具の上に、此の家の主人と思われる四十才前後の立派な武士と、十五、六才の女とがう美少年がこれも上半身肌ぬぎとなつて、お互いの小刀を相手の下腹部に深々とつきさして相果てゝいた。そのかたわらの枕辺に遺書を書いた太い巻紙が目についた。ふるふる手で旅人はそれを読み始めた。(切腹願望生)

私は本年三十六才の男子です。でも私は女性に生れて来たかつたと言ふ気が持たないのです。それは日毎毎報じる人身売買の話、私はそれをみる度に、うらやましくてならないのです。私もあんなに素裸でさるぐつわをされて、ローソク責め、辛子責め、くすぐり責め、洗腸責め、むちうちで無理無様に客を嫌でもとらされる。あけく果ては刺青まで入れられて香港や上海へ売られる。棒を入れられてじりまわされる。客をこぼせば飯も喰へさせられない。こんな小説や、実話、映画をみると私もなりたくて辛棒出来なくなるのです。どなたか私に女装させて責め、せつかんして下さる人はないでしょうか。

(大阪K・S生)

高橋氏の記事は殆んど読んだ事があります。六月号で沼氏の重ねての抗議文を拝見して大そう愉快に思いました。日本人はとかくアツサリ負けた事を表明する事を恥しむ悪習があり、甚だ残念な事だと思ひます。議論は正々堂々と十分に親切に、又思い切つてやるべきですが、自己の誤りを自覚したアツサリと認める事こそ其の學者です。ピンボケの論難や弁解は全く不快千万、良心のない世の中は、ごまかし、煙にまぐ、ハツタリでゆくのだと云うのなら論外だが。

(K・A生)